

■ 集 会 基 調 ■

人生100年時代と言われていています。しかし、それを手放しで喜んでばかりはいられません。社会保障制度の拡がりや給付が増える一方、保険料収入はここ20年間、ほぼ横ばいで、制度そのものが大きく揺らいでいるからです。

政府・与党は、少子・高齢化が最大の要因だとして給付やサービスを減らし、負担を増やすことに一生懸命です。しかし、少子・高齢化は国の政策運営の結果です。社会保障制度を安定させるには、良質な雇用の確保が最重要であることは衆目の一致するところですが、歴代自民党政権はそれとは正反対の政策をとり続けてきました。そのために、結婚したくてもできない若者や、子どもを産み育てたくともそれができないご夫婦、終の棲家さえ確保できない低所得の高齢者が増え続けています。

自民党の雇用・労働政策の根底にあるのは、1995年、当時の日経連が発表した「新時代の日本的経営」という研究会報告です。その中で日経連は、日本が国際競争に打ち勝って行くために、これからの雇用は必要最低限の管理職要員と技術開発要員などの「エリート」を確保したら、その他はすべていつでも解雇できる労働者にすべきだと言っているのです。

それを受けて歴代自民党政権は、雇用・労働法制を緩和・改悪し、非正規雇用を増やし続けてきました。その結果、多くの企業が史上最高益をあげていても、労働者や高齢者への波及など実感できるものは何もありません。むしろ高齢者の生活は、公的年金がジリジリと目減りする中で、日に日に苦しくなっているのが実態です。

政府・与党、とりわけ安倍政権の悪行はそれだけではありません。昨年の通常国会、臨時国会では、森友・加計学園問題への安倍総理や昭恵夫人の関与が見え隠れしましたが、徹底した資料隠しと虚偽答弁で全容解明には至っていません。「働き方改革法案」や「カジノ実施法案」「参議院選挙制度改革法案」は、国民の理解のないまま問答無用で成立させてしまいました。まさに安倍政権の国会運営は、資料隠しと虚偽答弁、強行採決の繰り返しです。

女優であり歌手でもある松坂慶子さんの「愛の水中花」という歌があります。
♪これも愛 あれも愛 たぶん愛 きっと愛 ~という歌い出しですが、安倍政権の国会答弁は、♪これも嘘 あれも嘘 たぶん嘘 きっと嘘 ~と替え歌にしても過言ではないほどです。

こんな政治は一日も早く変えなければなりません。